

なり、人生が楽しくなった。

〔症例2〕75歳、女性、主訴は疲れやすいことで、他に冷え症で不眠症である。虚証で不眠があることより加味帰脾湯（煎じ薬）を処方し、体全体が楽になり気分が良くなり、ふくれつつらが減った。

漢方治療はQOLの向上におおいに役立てるものと思われる。

3. 気道粘液線毛輸送系におよぼす漢方方剤の効果 （第一内科） 千代谷厚・玉置 淳・ 多賀谷悦子・兼村俊範・金野公郎

〔目的〕気道の粘液線毛輸送系におよぼす漢方方剤の効果を明らかにするため、気管上皮細胞のion transportに対する柴朴湯（TJ-96）および清肺湯（TJ-90）の作用を検討した。

〔方法〕犬気管培養上皮細胞を用い、膜電位固定法にてshort-circuit current (Isc) を測定した。

〔成績〕TJ-96、TJ-90とも有意にIscを増加させた。TJ-96によるIsc増加反応はNa channel blockerであるamilorideの前投与にて、一方TJ-90によるIsc増加反応はCl channel blockerであるDPCの前投与にて抑制された。

〔結果〕TJ-96は管腔側からのNa ionの吸収を促進させることにより気道液の減少を惹起し、逆に、TJ-90は管腔側へのCl ionの分泌を促進させることにより気道液の増加を惹起することが窺われた。

特別講演 呼吸器領域の漢方治療

（東女医大附属東洋医学研究所 客員教授）

松田邦夫

呼吸器領域で漢方治療の比較的良い適応は、急性上気道感染症（易感染性を含む）、気管支炎（急性）、気管支喘息（軽症～中等症）である。ある程度の効果が期待できるものは、心因性要素の強い呼吸器症状（咳、

呼吸困難感など）、慢性気管支炎などである。

呼吸器疾患に頻用される漢方処方には、麻黄、柴胡・黄芩、杏仁、麦門冬、厚朴、人参などを含有するものが多い。

感冒の漢方治療は、罹患後の経過日数、患者の体質の強弱を参考とする。初期には主として麻黄剤（葛根湯、麻黄湯、小青龍湯、麻黄附子細辛湯など）が用いられるが、胃腸虚弱な者には桂枝湯、香蘇散、真武湯、小児には五苓散が用いられる。遷延型には柴胡剤（小柴胡湯、小柴胡湯加桔梗石膏、柴胡桂枝乾姜湯）、参蘇飲など、回復遷延型には補剤（補中益気湯）が用いられる。

気管支炎は喀痰の多少により湿咳、乾咳を分ける。乾咳には、麻黄剤（麻杏甘石湯、麻黄湯）、柴胡剤（柴朴湯）、滋潤剤（麦門冬湯、滋陰降火湯）などが頻用される。湿咳は喀痰の性状によりさらに漿液性、膿性に分け、前者には麻黄剤（小青龍湯、麻黄附子細辛湯、苓甘姜味辛夏仁湯など）、後者には柴胡剤（小柴胡湯、柴朴湯など）、清肺湯などを用いる。胸痛には柴陷湯が用いられる。

気管支喘息は、発作時には麻黄剤を用い、非発作時には体質改善を目的に柴胡剤、虚弱者に補剤を用いる。重症のものは現代医学的治療が必要である。

気管支喘息に頻用される漢方薬は以下の通り。アレルギー型は、発作時、非発作時ともに小青龍湯が用いられる。咳込み型の発作時には麻杏甘石湯、非発作時には小柴胡湯合麻杏甘石湯。心身症型の発作時には神秘湯（胃腸障害には半夏厚朴湯）、非発作時には柴朴湯。虚弱者の発作時には現代医学的治療、非発作時には補剤（補中益気湯、小建中湯、人参湯）などが用いられる。